

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

授業参観 第二弾

昔から教員の仕事は終わりが無いと言われます。人間相手の仕事ですから、人格形成に完成が無いのは当然のこと。あれもこれもとやり始めると業務にピリオドはありません。授業、部活動、生活指導に保護者との連携、様々な会議や分掌の仕事（学校には教務部・進路指導部・総務部・生徒指導部・入試広報部などの部署があり、先生方は学校がスムーズにうごくよう業務を分担しています）等々・・・その結果、時間外勤務が常態化し、教員は疲弊しきっているとの報道も止みません。

それでも生徒のために二松学舎の先生方は日夜、「ガンバッテ」ます。



【小門 優貴 先生
4月26日（水）2限
「実践古典」3年G組】

生徒も興味関心の高い『三国志』が今日の教材です。場面は劉備玄徳が諸葛孔明に教えを乞うために三度訪問するという「三顧の礼」です。漢文で漢字が並ぶとちょっと難しく感じますが、それを如何に楽しく教えるかが小門先生の腕のみせどころ。活気ある雰囲気の中、生徒参加型の授業が展開されていました。50分間、集中して授業に臨めるよう配慮・工夫された内容でした。



【八木 三咲 先生
4月26日（水）5限
「現代文B」3年D組】

「哲学は何の役に立つのか」という評論文を読解していく授業。八木先生は、文章の流暢さや美しさではなく、文章全体の構造を分析して筆者の主張を探るという内容を指導されていました。まず接続語に印をつけ、次に大事な箇所線を引き、補足的な箇所は（ ）で括弧するという作業。この「線引き読み」による「構造読解」の手法は、理系の皆さんにも分かりやすい解説でした。



【千葉 儀胤 先生 4月26日（水）6限「公共」2年B組】

高校生＝青年期は、「疾風怒濤の時代」と言われます。様々な悩みや欲に苛まされ、日々を送っていることでしょう。「公共」の授業では「葛藤」や「欲求不満」、それに対応する「防衛機制」について学びます。千葉先生はご自身の豊富な経験から様々な事例を紹介して分かりやすい解説をされていました。「食べたいけどダイエットもしなきゃ」という「葛藤」の事例では、ご自身の減量話も飛び出しました。（「校長先生がいるけどいいかなあ」と言いながら・・・）

1年生 やってみたい部活動 決まりましたか？



入学して3週間が終わろうとしています。皆さんは「3の法則」を聞いたことありますか。

新しい環境に慣れるためには、3日、3週間、3か月という時間が必要とされているようです。裏を返せば、その期間が経つと自分の居場所が見つかり、新たな生活にも慣れるようです。

二松学舎での生活をより豊かにするために居場所の一つとして自分を生かせる部活動を選んで活動してみたいかがですか。

今週は各教室等で説明会が行われています。あれもこれもと欲張りな人は兼部してもOKです。

LET'S TRY!!

